

基本目標1	お互いを大切にし合うひとづくり
活動目標(1)	互いに支えあう意識の醸成
具体的な取組①	人権意識の啓発を基盤とした福祉意識の向上

実施した事業など： 人権同和問題研修会

《実施：13地区》

## 令和6年度の活動実績・成果等

- ・年3回（5・7・2月）に実施している。
- ・年1回実施している。
- ・年1回実施しており、3月1日に開催した研修会は50名程度の参加があった。
- ・人権ネットいいづか「高齢者の人権について」で開催した。
- ・9月の福祉のつどいにて「高齢者の人権：認知症について」をテーマに実施した。
- ・年3回実施している。（7月「カスタマーハラスメント」、11月「8050問題」、2月「教科書無償給付の闇」）
- ・自治会別に開催している。
- ・年1回以上市が開催している人権同和問題研修会に参加しているようにしている。

## 問題点、困っていることなど

- ・人権同和の研修は日程調整がつかず実施できなかった。
- ・参加の呼びかけはするが、なかなか参加がない。市報等の広報を見て参加する方はほとんどいない。

## 問題点の解決策として考えられること、意見・提案など

- ・人権ネットいいづか、行政書士と連携し開催している。高齢者向けの詐欺、外国人の地域の受け入れ等の題材が多い。
- ・地域での課題に差があるので自治会で開催している。
- ・自治会によっては不参加の場合、費用を徴収することもある。
- ・団体やサークルに開催について呼びかけし、参加者を募っている。市報は見てもなかなか参加がないが、サークルや団体、福祉委員から紹介を受けると参加することが多い。イベントの内容を紹介する等のプラスアルファでの働きかけが必要。

実施した事業など： 福祉委員研修（地区社協、ネットワーク委員会）

《実施：18地区》

## 令和6年度の活動実績・成果等

- ・年2回実施している。
- ・民児協と合同で年2回実施している。
- ・年2回実施している。（6月「重層的支援体制整備事業、介護予防」、11月「男女共同参画出前講座」50名程度）
- ・年2回、福祉委員・民生委員合同研修会実施している。
- ・福祉委員研修「偽電話詐欺」について飯塚警察署から指導
- ・地区社協・ネットワーク委員会 各年1回5月に実施している。
- ・地区社協・ネットワーク委員会が市主催の研修に年2回参加している。
- ・福祉委員研修（年2回、市社協5/23 23名・地区社協2/22 ユマニチュード講演 41名）

## 問題点、困っていることなど

- ・日程の都合で開催ができなかった。

## 問題点の解決策として考えられること、意見・提案など

実施した事業など： 観察研修

《実施：7地区》

## 令和6年度の活動実績・成果等

- ・民児協持ち出し研修会（11月6日福岡認知症フレンドリーセンター（認知症施設）見学）に参加している。
- ・福祉ネットワーク委員会視察研修（R6は消防本部、消防署を見学（30名程））
- ・施設見学研修（R6は消防学校を見学）
- ・福祉施設視察は役員研修として実施している。
- ・ネットワーク委員研修（春日市クローバープラザ（バリアフリー化）18名参加）
- ・地区社協合同先進地視察研修（令和6年度：15名参加、明太子工場社会見学 ふくや）を実施した。

## 問題点、困っていることなど

- ・研修でバスの借用の費用の捻出に苦慮している。マイクロバスの確保等、他の自治体の調査研究してほしい。

## 問題点の解決策として考えられること、意見・提案など

- ・視察研修会、ふれあい交流会等、参加される方が毎年楽しみにされている。視察研修会も遠方に連れていきたいが、天候や参加者が高齢化しているためケガのリスクがあり、さらに長時間の移動は難しいと考えている。ただし、毎年参加者は楽しみにしているため、遠方（県外）を検討している。バス1台で30名程度で検討している。

実施した事業など： 福祉・健康に関する講演会

《実施：5地区》

## 令和6年度の活動実績・成果等

- ・福祉に関する講演会等を年1回実施している。
- ・福祉に関する講演会等を各自治会で実施している。
- ・介護予防教室（参加者25名）、済生会飯塚嘉穂病院、記念講演「糖尿病について」（参加者20名）実施した。
- ・福祉に関する講演会を年1回開催している。

## 問題点、困っていることなど

- ・研修会も自治会長等に出席してもらっているが、高齢化が目立つ。

## 問題点の解決策として考えられること、意見・提案など

- ・自治会長、民生委員が協力しており、参加申し込みが増加傾向にある。概ね60名～80名程度の参加者数がある。

実施した事業など： 男性料理教室

《実施：1地区》

## 令和6年度の活動実績・成果等

- ・まち協と共同で年2回開催している。

## 問題点、困っていることなど

- ・問題点、困っていることなど

## 問題点の解決策として考えられること、意見・提案など

実施した事業など： 小学生の福祉体験

《実施：1地区》

## 令和6年度の活動実績・成果等

- ・4年生を対象に車いす、手話、点字等の福祉体験を開催した。9月4日点字、11日手話、18日、25日手話
- ・小学生への福祉講座令和6年度は未実施。
- ・子供講座で災害時の非常食としてお湯ポチャレシピをテーマに開講した。
- ・ボランティアセンターとタイアップした実施した。

## 問題点、困っていることなど

- ・問題点、困っていることなど

## 問題点の解決策として考えられること、意見・提案など

基本目標1	お互いを大切にし合うひとづくり
活動目標(2)	住民主体の地域福祉の推進
具体的な取組①	自治会等の地域活動の促進

実施した事業など： **自治会への加入促進**

《実施：18地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
・自治会への加入促進	<p><b>問題点、困っていることなど</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が自治会に入っていないこともあり、災害時の避難を自治会長がどこまで手助けできるか検討している。</li> <li>・未就学児がいる家庭や高齢者は特に自治会に入つてもらつた方が有事の際に手助けがしやすい。</li> <li>・加入促進に民間の不動産管理会社も協力してもらえると助かる。</li> <li>・地区内に市営住宅もあるが、入居者は自治会に入らない。共有費、自治会費の支払いが二重になるので、加入しないと断れることもある。自助公助の要が自治会加入であるため、自治会加入については、市全体を考えないといけないのではないか。具体的な政策でどう進めていくかが必要ではないか。高齢になればなるほど、自治会への加入を促進した方がよい。自治会未加入世帯は、情報が入らない状態で民生委員が世帯訪問する場合もあり、世帯への程度踏み込んでよいか判断に困るときもある。また、自治会未加入世帯の独居老人が自宅で孤独死していたケースもあり、高齢者の自治会加入を進める必要があると思う。</li> <li>・加入促進するもなかなか入ってもらえない。</li> <li>・隣組長に加入の説明をお願いしてもなかなか行かない。隣組長会合の際も、自治会加入の話題も上がるが、加入促進にはなかなか難しい現状がある。</li> <li>・高齢化で自治会の人口が減るが、若い世代が転入してきても入らない。役員がめんどくさい、周りの人と関わらない人が増えたといった理由があると考える。</li> <li>・盆踊りや祭りをした際は、子どもや若い人が大勢参加しているが、自治会には加入していない人がほとんどだと思う。自治会に入つていない世帯は子どもも会に入れないので、子どもも会を開催した際に、自治会加入していない世帯の子どもが参加したいと来ても、ことわざるを得ないこともある。</li> <li>・全体的に考え、活動は進めているが、実績にはなかなか結びつかない。自治会に転入した世帯に加入を勧めるがなかなか難しい。</li> <li>・自治会への加入は減っている。加入してもメリットがないと思われている。</li> <li>・市報の配付が課題となっている。配っても迷惑がられるため、配布しない世帯もある。市報の配付の問題を解決しないと自治会数は減る一方だと思う。欲しい方もいるので、頼まれた際は交流センターへ取りに来て渡しているが、完全にボランティアで行っている。</li> <li>・イベントがないのに自治会費は変わらないので、自治会費を下げてほしいと要望を出した。</li> <li>・街頭をついているが、電気代は自治会費で支払うため、自治会に入つない人は払わなくても街灯が利用できているので不公平が生じている。</li> <li>・強制力がなく、本人の意識しかないので、行政として条例等があり、入るべきだと、自治会が物事の基本になると思うが、その辺の理解がない、生活仕事、子育ての時間が多いため、自治会までかかる時間がない。メリットがないというが、目に見えないもの（メリット）があるが、それを理解されない。高齢化率、身体的、経済的に自治会を抜ける高齢者が多い。各自治会でも年齢層が違うので、各自治会に応じたお助け隊を作るべきではないか。家に知らない人が入ってくるのは嫌だという高齢者も多い。お助け隊は地域の人たちが顔見知りになり、顔見知りの人がしてくれることが安心になるようにするべき。自治会の作り方を考えていかないと、お互いがお互いを助けあう、感覚で、加入していく方法を考えたい。家庭によって高齢者の在り方が違う。地域のことは地域で、全体のことは地域で振り分けしていくことが必要。未加入世帯におしらせを回しているが、なかなか連絡は来ない。加入促進できる文言があればよい。</li> </ul> <p>※お助け隊：社会福祉協議会、地区独自でボランティアのセンター講座3回、各自治会にどのようなことを困っているかアンケートを取つて、集約した。センターを増やしていく、中身の精査。開始時期は秋を目指している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミ出しのルールを守らない方は、自治会に入つない方が多い。地域住民から苦情をもらうが、困っている。</li> <li>・自治会の加入率が下がれば、飯塚市はどうするのか。市としては、市民の問題ではないので、自治会任せにせずに、行政も考えてもらえないか。</li> <li>・市役所では、転入時に自治会加入について説明をしているのか。</li> <li>・自治会加入の動画の効果はどうか。結果も教えてほしい。</li> <li>・小中一貫校ができ、新しい家が増えたため、自治会長を先頭に加入促進を行つてはいるが、若い世代の世帯の加入が少ない。働く年齢が伸び、自治会への加入が難しいと断れる。</li> <li>・イベントを行う際、交通手段がない世帯は自治会で協力し合い会場まで移動している。加入世帯が減少すると、自治会での協力体制が難しくなるのではないかという懸念がある。</li> <li>・自治会に入つてもメリットがないと思われている。特に引っ越ししてきた若い世帯は入らないことが多いイメージ。市営住宅入居者は、自治会に入る必要があるが、若い世代はその意識が薄いように感じる。</li> <li>・小中一貫校ができ、家が増え、若い世帯が増えており、加入促進するも自治会加入世帯が少ない。1/3程度の世帯しか加入していない。</li> <li>・アパート入居者は入らない。戸建てを建てた方は、説明に行って加入してもらうが6割程度しか加入はない。</li> <li>・自治会の加入については、新しく越してきた世帯は入らない。自治会加入を促すも、「メリットがない」、「自治会費、募金活動、役員にもやりたくない等の負担ばかりがある」と言われる。</li> <li>・自治体加入については、地域での取り組みよりも市の政策で考えてもらわないと加入率の向上には結びつかないのでないかと考えている。</li> </ul> <p><b>問題点の解決策として考えられること、意見・提案など</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢世帯には自治会に入った時のメリットを説明している。地域のバザーで使える100円分のチケットを渡し加入促進している。自治会に入った方がメリットがあるという活動を実施。お祭り等、人が集まる場で加入促進をしている。</li> <li>・いきいきサロンに参加するために、自治会に加入している方もいる。</li> <li>・組費は払えないが、自治会費だけなら払ってもよいという世帯もあり、自治会加入の説明を工夫している。</li> <li>・各自治会で声かけをしているが、10月に独居の75歳以上の自治会加入している方にお弁当、お菓子を配付しており、加入促進になっている。</li> <li>・以前は、異動の手続きの際に市役所がパンフレットを渡しており、自治会長のところへ訪ねてきたいが、今はパンフレットは渡していないため、毎月の異動者一覧が市役所から届かないと転入、転出が分からず、またどのような人が転入してきたかわからない。異動者一覧は転入してきたときに欲しい。</li> <li>・自治会に加入した場合、情報のやり取りができる。公民館の使用的許可、拠点ボックスの使い方、ゴミ置き場のルール等を周知できるので、転入してきた人と接触できれば、加入した際のメリットを伝えたい。</li> <li>・自治会に加入することでのメリットを説明した加入促進DVDを作成し、出前授業でDVDを流している。小学1年生向けの主任児童委員との顔合わせの際にDVDを流し、子どもを通じて保護者へ呼びかけをしている。</li> <li>・祭りにて自治会加入促進をしている。</li> <li>・自治体が各世帯にポストインしてほしい。自治会に入つない人は配布しない等を飯塚市内で統一してほしい。</li> <li>・地域の集まりやイベント（盆踊り、芋掘り体験）で自治会に入つない世帯や子どもたちを呼び、地域のイベントに参加してもらっている。</li> <li>・民間のアパートで家賃と一緒に自治会費を徴収しているところもある。</li> <li>・お祭り等のイベントの時に案内をだす。アンケート調査をして、加入促進をしている。</li> <li>・自治会活動の仕組みを周知する取り組みができるといいと思う。出前授業のように小学校に行って、子ども向きに共助の取り組みについて、どのようなことをしているか教える場ができるといいと思う。子どもから保護者へ広がればよい。子ども達に食堂の成り立ちを教えているが、それらを子ども達が理解したところ、自分たちにできるお手伝いをしたいといって、自ら子どもたちにできることをするようになったといった例があることから、子どもたちも参加型になるとよいのではないか。</li> <li>・まちづくり協議会と連携し、ウォークラリーのゴールスタンプのスタンプ台の隣に自治会加入促進のグッズやチラシを置いている。イベント時に加入促進ができる工夫している。</li> </ul>

実施した事業など：自治会への加入促進

問題点、困っていることなど	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など
<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会よりも防災活動の方に重きをおいて、活動したほうがよいのではといった意見もある。</li> <li>防犯灯の電気代の問題もある。市で維持管理をしてほしい。他自治体は行政が管理している。不平等だと思う。</li> <li>自治会の会議の在り方や開催時間も考えないといけないのではないか。</li> <li>市役所で異動の手続きをして、自治会からの訪問の承諾をいただいた方の入居の案内が市役所からくるため、隣組長と一緒にごみ袋等の粗品を持って訪問に行く。団地に若い世帯が入居した際は加入しないことが多い。以前の自治会で役員問題でもめたので加入しない、市役所で異動手続きの際に自治会加入はしなくてもよいといわれたので入らないと主張している世帯もある。自治会はメリットがあるので加入するが、隣組はメリットないと言って入らない世帯もある。</li> <li>自治会で、子どもが生まれた時、小学校入学時のお祝い金を検討しているが、規約を作り替えないといけないので悩んでいる。</li> <li>転入転出異動の連絡が自治会にあれば加入促進に動ける。まちづくり推進課との協議が必要だと思う。</li> <li>自治会加入への意識が低い。自治会の人間関係がうまくいかないとやめていく。加入のメリットがない、組長になりたくないといってやめしていく。</li> <li>庄内地区の人口は増加傾向にあるようだが、転入者の自治会加入はない。集合住宅へ声かけはするが、なかなか加入しない。サービスを享受するのはいいが、働きかけるのは嫌という声もある。</li> <li>子ども達も親が自治会に加入しないで、成長して大人になっても自治会に加入するという意識が薄い。</li> </ul>	

基本目標1 お互いを大切にし合うひとづくり

活動目標(2) 住民主体の地域福祉の推進

具体的な取組② ボランティア活動や市民活動への参加促進

実施した事業など：地域の担い手づくり

《実施：3地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
・熟年学び塾等の地域活動への参加の呼びかけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で中止となっていた活動の再開</li> </ul>
問題点、困っていることなど	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など

・若い人は働いており、時間の制約があるためなかなか担い手にはなってもらえない。担っていた方々が高齢となり、担い手不足となっている。自治会長の負担を減らして誰でもできるようにして、毎年交代する地域のこともわかるようになる。若い人が何が課題で自治会長できないのか聞いてほしい。

・システムが自治会で成り立っているのであれば 毎月会議でないといけない。

・役員も高齢化して、病気の心配もするようになったので世代交代が必要。しかしながら、次に誰を推せばよいかわからない。どの団体も、次の若い世代への引き継ぎに苦慮している。交代の時期の見定めや声掛けがなかなかできない。

・地域の担い手では、次の世代がなかなかいない。マンション建設で住民は多いが、特に若い世代の方々は地域と関わり合いが希薄。呼びかけをしても反応が薄い。

・若い人は働いているので、なかなか難しい。福祉委員もあり手がないが、各地域を1人で活動することは困難と考えている。

・福祉委員の配置数の基準が変わったため福祉委員が減った。そのため1人当たりの活動範囲が増える。高齢者が増えているのに福祉委員を減らすのはどうかと思う。

・民生委員のなり手が高齢化等で少なくなっている。福祉委員も少なくなりつつあり、また自治会もなくなりつつあることから自治会の活動自体減っている。活動している方が高齢者しかいない。地域の繋がりが薄くなると考える。

・若い世代は仕事があり、地域の活動まではなかなかかかわることがない。

・次の役員となる人を探すことが大変。

・高齢者ばかりで担い手がない。65歳以上の世帯が多く、イベントや活動が何もできない。

・以前自治会長をしていたが、高齢のため一度引退したものの、担い手がないため、また自治会長をしているが、それほど担い手がない。地域の活動は、担い手が高齢化しているが、一度辞めたら再開する機会がなくなるため、無理にでも継続している。

基本目標1 お互いを大切にし合うひとづくり

活動目標(2) 住民主体の地域福祉の推進

具体的な取組③ 多様な担い手が地域福祉活動に参加できる環境の整備

実施した事業など：地区社協・ネットワーク委員会の組織運営

《実施：19地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>運営委員研修会（令和6年度「高齢者の見守りについて」）を実施した。</li> <li>地区社協・ネットワーク委員会の組織運営を月1回開催している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協議体会議を年4回開催する。 (元気な人たちが助ける側となる生活支援体制整備事業。元気な人を地域で生かすための会議)</li> </ul>
問題点、困っていることなど	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など

・予算内でできるよう、協議しているが、金銭的に厳しい。

基本目標1	お互いを大切にし合うひとづくり
活動目標(2)	住民主体の地域福祉の推進
具体的な取組④	地域福祉活動への支援

実施した事業など： 各種団体への助成、各種団体支援等（内容充実）

《実施：19地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり協議会への参画</li> <li>・桜の花びらエール（小学校に掲示）</li> <li>・どんど焼き（小学校グランド、食糧援助として参加）</li> <li>・地域のまつりへ支援</li> <li>・女性ボランティア、こども会、体育振興会、交通安全への助成を実施。</li> <li>・いきいきサロン・敬老会実施自治会への補助</li> <li>・地域組織へ助成金交付</li> <li>・グランドゴルフ、ケアトランポリンへの助成</li> <li>・福祉委員への活動費助成</li> <li>・校区社協から児童クラブ（泥んこ遊び、エイサー太鼓）への補助</li> <li>・いきいきサロン等へ校区社協、ネットワーク委員会から助成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり協議会への参画</li> <li>・どんど焼きへの参加</li> <li>・敬老会、グランドゴルフへの助成</li> <li>・まちづくり協議会、どんど焼き、防災プロジェクト、芋ほりへ参画、支援</li> <li>・いきいきサロン活動への助成</li> <li>・小学校のプール監視員、小学校子供を守る会への補助</li> <li>・障がい者協議会ボッチャ大会協賛</li> <li>・認知症カフェ運営費助成</li> <li>・ふれあいフェスタ助成</li> <li>・ボランティア連絡協議会へ花壇の花代を助成</li> <li>・介護予防サロン、いきいきサロンへ助成</li> </ul>
問題点、困っていることなど	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など
<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり協議会へ参加。青少年育成部会の活動が活発である。</li> <li>・第一中学校の制服を3Rする取り組みを行っているが、なかなか進まない。</li> <li>・地区社協の手当が減ったため、お弁当の費用を27万円地域福祉ネットワーク委員会から社協に補填している。</li> <li>・自治会から敬老会に対して、助成し祝い金や記念品を贈っている。グランドゴルフにも助成していたが、助成するお金がない。</li> <li>・一般の方にまち協や社協の活動が何をしているか把握してもらっていない現状がある。まち協ものぼりたてたり活動はしているが、他自治体では野球のチケットプレゼントしたり、災害関係のマップを渡したりしていると聞いたことがある。地域格差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所の和室の畳のダニ駆除を地区社協より助成している。今後も地区社協から支援ができることについては、支援を継続する。</li> <li>・まちづくり協議会へ参画しており、何かある際は地域全体で行事を行う。</li> <li>・青少健では、社協、まち協から助成金をもらい活動している。</li> <li>・九工大の学生、先生とタイアップしている。地区社協や、まち協の委員も兼任しており、共済して活動を支えている。助成金をもらうだけでなく、活動も支えているため、今後ともこのような関係でいきたい。</li> <li>・福祉委員が減っていっている。福祉委員は年間手当が1,000円程度あるが、広い地域は車移動が必須であることから、ガソリン代等に充ててもらえるよう月300円を助成している。また、地域で作ったバッケ、帽子、紙ばさみを配付している。福祉委員が代わった際、訪問時に福祉委員、地域の活動を行っている人と認識してもらえるように配付している。</li> <li>・どんど焼きでは、おやじの会（PTA）が来られた方へやきそば、焼き芋等を提供している。焼き芋は1人1個ずつとし、好評。</li> <li>・小学校泥んこ遊び、エイサー太鼓には校区社協から補助金（田んぼを借りる費用、児童クラブエイサーの太鼓の購入金額）を出しており、3年目になる。エイサー太鼓は発表会でも評判がよい。</li> </ul>

基本目標2	支えあう地域づくり
活動目標(1)	地域における交流活動の促進
具体的な取組①	交流活動の促進

実施した事業など： いきいきサロン

《実施：20地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・いきいきサロンを4自治会（対象：75歳以上）で実施している。</li> <li>・いきいきサロンを8/9自治会で実施している。</li> <li>・いきいきサロンを13/14自治会で実施している。</li> <li>・いきいきサロンを10/10自治会で実施している。</li> <li>・いきいきサロンを6自治会で実施している。</li> <li>・通常は8月以外の偶数月・年5回（参加者22～28名） (健康チェック、雪印メグミルク「骨の健康」講座、市介護予防教室「口腔編」、飯塚警察署「高齢者の交通安全教室」)</li> <li>・いきいきサロンを18/26自治会で実施している。</li> <li>・いきいきサロンを25自治会で実施している。</li> <li>・いきいきサロンを13/16自治会で実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いきいきサロンを7自治会（総計921名）で実施している。</li> <li>・いきいき健康サロンは毎月水曜日に実施している。</li> <li>・いきいきサロン（令和6年度は1自治体/10自治会）（3回/年、参加者：40名程度）を実施した。</li> <li>・いきいきサロンを全8自治会で実施している。</li> <li>・いきいきサロンを月1回、全6自治会で実施している。</li> <li>・いきいきサロン全自治会で実施している。</li> <li>・いきいきサロン講演会（中央福岡ヤクルト販売「骨骨貯金で口コモ予防」、65歳以上、80名）</li> <li>・いきいきサロンを10/11自治会（各自治会で月2回）で実施している。</li> <li>・いきいきサロンを10/31自治会で実施している。</li> <li>・いきいきサロンを11/33自治会（65歳以上1312名、64歳以下24名助成）で実施している。</li> </ul>
問題点、困っていることなど	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など
<ul style="list-style-type: none"> <li>・いきいきサロンの実施ができない地域（自治会）もある。</li> <li>・いきいきサロンができない地域もあり、地区社協も高齢者のお困りごとが把握する場がない。困っている方の情報がつかめない。</li> <li>・毎月各公民館でいきいきサロンを実施している。公民館によってはクーラーがないところもあるため、熱中症対策のため、8月はいきいきサロンを開催せず、健康確認のために訪問して、お菓子を渡している自治会もある。</li> <li>・福祉活動は年間総計921名の参加者がいる。目標は1,000名だが、施設入所や移動手段がない等で目標達成までには届いていない。</li> <li>・コロナ禍前は19自治会が行っていたが、コロナ禍が明けても、再開されない自治体もある。会食会、敬老会もコロナ禍をきっかけになくなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1自治会のみいきいきサロンが発起人がいないといったことから開かれていなかったが、いきいきサロンに類する活動は行っていたことから、令和6年度からいきいきサロンに登録となった。</li> <li>・自治会の行事を行った際、申請してもらって1人当たり150円社協から支給している</li> </ul>

## 実施した事業など： ふれあい会食会

《実施：5地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
・ふれあいサロン（ふれあい会食会。年1回、1人暮らし80歳以上対象の昼食会）を開催している。 ・ねんりんふれあい会食会（単身75歳以上対象）R6年度は140名の参加者であった。 ・ふれあい会食会を令和6年度から実施。（スタッフ込みで約45名程度参加）	・赤い羽根高齢者会食会（10月、参加者93名）、高齢者との演芸鑑賞会（「津軽三味線他4団体による演芸」）を開催 ・ふれあい会食会は令和6年度実施なし（令和6年度以降若草会補助金へ名称変更） ・ふれあい会食会（令和6年度よりバスハイクしていたものをふれあい会食会へ変更。参加人数25名程度）
問題点、困っていることなど	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など
・ふれあい会食会を行っていたが、コロナや、助成金がでなくなり、それ以降は中止している。 ・食事の提供で人が集まるので、ふれあい会食会も開きたい思いはあるが、食べきらなかった方が持つて帰った際の食中毒等の不安があるため、開くことが困難。	・コロナ禍や交流センターの建て替えでイベント等の在り方が変わってきた。これまでバスハイクを行っていたが、ふれあい会食会に変更した。交流センターで45名程度で実施したが、普段一人暮らしで個食である方が多いので、ご飯が美味しいと評判がよい。

## 実施した事業など： バスハイク

《実施：1地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
・ここ数年は中止としている。 ・バスつどい（65歳以上、70名に弁当配布）	・バスハイクは令和6年度より廃止している。（ふれあい会食会へ変更）
問題点、困っていることなど	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など
・対象者が高齢のため中止としている。	

## 実施した事業など： 交流（高齢者）

《実施：16地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
・小学校・保育所との交流（いきいきサロン内） ・飯の山まつり（年1回） ・飯の山お花見マルシェ ・料理教室（9月・11月実施） ・小旅行（年1回、葬儀社の移送職員） ・ふれあい相談（随時） ・一日のつどいを年1回開催している。単身75歳以上対象にお弁当とお菓子を配布。（民生委員等を含め約300人） ・赤い羽根高齢者会食会（10月、参加者93名） ・高齢者との演芸鑑賞会（「津軽三味線他4団体による演芸」） ・交流センター祭りを開催 ・健康マージャン ・ウォーキング大会	・ケアトランポリン（毎週木曜）を実施している。 ・ふれあい活動（福祉活動の際にお弁当を配付） ・福祉のつどい（7自治会合同：6、10、1月） ・福祉のつどい（年4回、介護予防・フラダンス・人権研修・ウクレレ漫談・笑いヨガ・津軽三味線） ・福祉のつどい（講演「悪質商法に合わないために」）を開催した。 ・自治会高齢者ふれあい活動 (指笛演奏会（ネットワーク委員会・まち協）、ウクレレ音楽演奏会（児童・地域住民）) ・ふれあいマージャンは令和6年度は実施なし ・交流ウォーキング（65歳以上対象）は、2回雨天中止となった。 ・ふれあいマージャン教室（月各2回、参加者10名前後で1卓で開催）を開催した。 ・ふれあいフェスタを開催した。 ・ひとり暮らし高齢者交流会（令和6年度よりネットワーク委員会・社協合同）を開催した。
問題点、困っていることなど	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など
・以前は社協にバスを出してもらっていたが、現在はできない。バスを借りる費用が高い。	・お祭り等、人が集まる場で高齢者にコンタクトを取るようにしている。 ・交流センターの建て替えに伴い、これまで通りの収容人数がある施設が学校しかなく、トイレ問題や参加者、サポートする方の高齢化の問題で、一日のつどいをお弁当配付に変更した。 ・高齢者をいかに家から出すこと、認知症等の高齢者に多い病気を防ぐように取り組んでいる。住民運動会は人手不足等の問題から中止し、いろんなイベントを開催するようになった。大きなイベントではなくなり、参加のハードルが下がったので、いろんな方に参加してもらえるようになった。 ・福祉のつどいは婦人部が食事を出しているところもある。 ・ウォーキング大会を実施しているが、外での協議となると、天候に左右されるため、室内でできる競技（新競技）での開催を検討している。令和7年度は、9月に囲碁ボーラー、五目お手玉を穂波福祉総合センターで開催予定。

## 実施した事業など： 敬老会

《実施：3地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
・コスモスコモンでお弁当を配付して開催した。（2年に1回実施）R6年度は93名の出席があった。	
問題点、困っていることなど	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など
・敬老会は、移動の問題等があり、民生委員に実施方法を変更するよう依頼している。	・暑さ対策のため、冷房設備が整っているコスモスコモンで実施した。

## 実施した事業など： フレイル予防

《実施：5地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
・いいかたカレッジ（フレイル予防。月1回体操・脳トレ、健幸プラザ）を開催している。	・フレイル予防活動支援、フレイル予防講習を実施している。
問題点、困っていることなど	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など
	・いきいきサロンができるない地域もあるため、民間企業に協力をしてもらい、いきいきサロン代わりの場としている。 ・脳トレや血管年齢測定（明治安田生命実施）を行い、30名程度の参加がある。

## 実施した事業など： 移動販売、バス

《実施：2地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
・移動販売車・試食会（講師：グリーンコーポ、8月）を実施している。	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など
問題点、困っていることなど	
・移動販売は令和6年度は廃止された。	・移動販売車自体の売上が伸びていないため、口コミで増やすという形をとっている。 グリーンコーポより講習をしてもらい、新商品の試食や実際に物品販売・実演をしてもらう。地域住民の情報交換の場にもなっている。参加者には商品と交換できる金券500円分を配付し、商品を購入してもらうが、多くの方が500円以上購入している。

実施した事業など： 三世代交流

《実施：6地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・あかね染体験を開催した。</li> <li>・まつり（地域）</li> <li>・三世代交流学童</li> <li>・交流センターまつり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・盆踊り</li> <li>・三世代交流会（まち協と共に、令和6年度は高齢者と中学生飯塚吹奏楽団を招待。120名参加）</li> <li>・3世代間交流（ボッチャ大会7月6日開催）</li> </ul>
問題点、困っていることなど	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍前は幼稚園児も参加していたが、コロナ禍以降再開できていない。コロナ禍前の状態に戻せていないものが多いた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を通じた三世代交流だけでなく、スポーツ（パラスポーツ）を通じた三世代交流をしてもよいと思う。</li> <li>・ボッチャ大会は、ニュースポーツ体験としてボッチャだけでなく、フライングディスク、五目お手玉の大会も小中一貫校で開催している。社協主催が、体育振興会共催、身体障害者協会団体も参加している。各団体がそれぞれイベントを開催してもなかなか参加者が集まらず、開催に苦慮するが、社協等のイベントを各団体が協力し合い開催している。</li> </ul>

実施した事業など： 衛生活動

《実施：1地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
・地区大掃除	
問題点、困っていることなど	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など

実施した事業など： どんど焼き

《実施：5地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
・小学校グラウンドでどんど焼き祭りを開催。	
問題点、困っていることなど	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんど焼きの際、焼き芋体験、焼きそば等を併せて振舞った。</li> </ul>

実施した事業など： 地区住民運動会

《実施：1地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
・小学校グラウンドで住民体育祭を開催。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民運動会令和6年度は中止した。</li> </ul>
問題点、困っていることなど	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など

実施した事業など： 交流（子ども）

《実施：6地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもまつり（地元の未就学児対象で開催、交流センター）を開催した。</li> <li>・子ども夜一（年3回、商店街、未就学児）を開催した。</li> <li>・子育て支援（年7回）を実施している。</li> <li>・交流センター、交流センター駐車場で文化祭を開催した。</li> <li>・高齢者（2名×10自治会）と園児20名のふれあい会食会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども餅つき大会</li> <li>・子ども山笠</li> <li>・自治会ごとにラジオ体操</li> <li>・ふれあいフェスティバル（子供対象。令和6年度はどんど焼きに組み込み）を実施した。</li> <li>・マルシェ（地区社協共催）を開催した。</li> </ul>
問題点、困っていることなど	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の伝統である盆踊りを体験できない子がいると悲しいので、地域で対応しようということで盆踊りをマルシェで行っている</li> </ul>

実施した事業など： 子ども球技大会

《実施：1地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
・ボッチャ大会を実施した。	
問題点、困っていることなど	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など

基本目標2	支えあう地域づくり
活動目標(1)	地域における交流活動の促進
具体的な取組②	地域の資源を活用した地域づくり

実施した事業など： 交流センター等の利用

《実施：20地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレパーク（子供たちの遊び場）を実施した。</li> <li>・夏場にこども会が主催するこどもまつり、秋のまち協青少年育成部会主催のこどもマルシェで活用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースポーツ（ボッチャ、五目お手玉）の大会を開催した（参加者50名～100名）</li> <li>・運動教室、フレイル、筋力アップ、地区社協健康講座を実施した。</li> </ul>
問題点、困っていることなど	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会の行事については、自治会で保険をかけているが、ケガしても申し出がないので困る。けがをした場合は、自治会長に申し出てももらわないといけない。公民館保障制度に加入しているので、言ってほしいと思う。高齢者のけがが多いので、保険の適用についても福祉部門でも推進してほしい。清掃活動時に蜂に刺されたといったことがあったが、診断書と保健金額が同程度の金額であるため、保険を利用しない場合もあった。</li> <li>・交流センターには、小学生達が放課後で宿題をしたり、高齢者が来たりして世代を超えた交流の場となっている。</li> </ul>

## 実施した事業など： グラウンドゴルフ

《実施：12地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラウンドゴルフを2団体で開催している。</li> <li>・グラウンドゴルフ（福祉のつどいにて実施。旧楽市小学校グラウンド、年1回、年齢制限なし）</li> <li>・グラウンドゴルフ（週2回、15～20名）を開催している。</li> <li>・小学生以上を対象にグラウンドゴルフ大会（年2回）を開催した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラウンドゴルフ（通常は年2回75名程、R6は1回雨により中止）を開催した。</li> <li>・グラウンドゴルフ大会（年2回、65歳以上、福祉総合センター・小学校グラウンド、32名・33名）を開催した。</li> <li>・グランドゴルフ（地域で開催している週2回）、ゲートボールを開催している。</li> </ul>
問題点、困っていることなど	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など
<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラウンドゴルフ大会を開催したかったが、主となる人がいないため、要望はあったものの開催できていない。</li> <li>・グラウンドゴルフは、小学校跡地でネットワーク委員会役員等が前日に準備を行い実施している。新しくできたグランドゴルフ場であれば準備や環境はいいのだろうが、そこまで行く手段がなく、また地域の方に来てもらうことが目的であることから、地域の方が行きやすい小学校跡地で実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラウンドゴルフ場が飯塚市で新しくできたため、ぜひ活用したい。グラウンドゴルフ場までの交通手段が課題。</li> <li>・グラウンドゴルフの開催は月曜日、水曜日に近隣公園で行っているが、参加者が高齢化している、また少なくなっている。</li> </ul>

## 実施した事業など： 学校行事への参加

《実施：3地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
学習支援(遠足の見守り)	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など
<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年小学校の運動会に高齢者を招待しているが、天候等の問題で運動会の延期が続き、令和6年度は未実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の遠足の際、勝盛公園への行き帰りに安全に遠足が行われるよう、交通安全等見守り活動を行う。</li> <li>・学校行事への参加については、農業体験として田んぼを貸していただき田植え、稻刈り、もちつきをしている。農業体験事業進めているが4校しか対象ではないので、校数にも拡大する、または補助金を出す等多くの小学校が体験できるよう工夫、検討してほしい。</li> </ul>

基本目標2	支えあう地域づくり
活動目標(2)	地域ネットワークの拡大
具体的な取組①	困っている人を支える協力体制の強化

## 実施した事業など： 避難行動要支援者実態調査

《実施：7地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
避難行動要支援者実態調査を民生委員で行っている。	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など
<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難行動要支援者実態調査は民生委員です。1月から3か月間で実施。最初は対象者が多く、避難者支援が困難だと感じていた。現在は減っているので、以前よりは困難さは軽減した。</li> </ul>	

## 実施した事業など： 赤い羽根共同募金への協力

《実施：17地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・トライアル、Asoで街頭募金を実施した。</li> <li>・ハローデイで街頭募金、大口募金30件程度周りに依頼した。</li> <li>・法人募金の協力を拡大し、協力企業が30くらい増加した。（100社程度から130社程度に増加）</li> <li>・Asoで街頭募金、地区ごとの協賛事業所へ法人募金を実施した。</li> <li>・10月街頭募金、11月法人募金を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社協と協力し、自治会での徴収を行っている。</li> <li>・イオン穂波、コメリで街頭募金を実施した。</li> <li>・社協とコメリにて実施した。</li> <li>・赤い羽根共同募金（イオン、1時間半程度）で実施した。</li> </ul>
問題点、困っていることなど	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など
<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度は、AsoとFoodWayで実施した。Asoは高齢者の利用が多く、現金を持ち歩く方が多かったため、募金は集まつたが、FoodWayの利用者は若い世代が多く、キャッシュレス利用者が多かったため、思ったほど募金が集まらなかった。再度場所を検討する必要がある。</li> <li>・これまでハローデイで10名程度で募金活動を行っていたが、人数が多いと客数が減るとお店から苦情がきたため、現在は3名～4名程度で募金活動を行っている。法人募金は3班に分かれて募金活動をしている。</li> <li>・自治会で600円、企業回りには役員についてきてもらっている。しかし、個人企業が多いので、年々募金額が減ってきていている。自動車関係は、親企業と一緒に募金していることが多いため断られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・赤い羽根共同募金は、民生委員、社協と協力して、10月の百縁市に合わせて行っている。イベント等の人が集まる際に赤い羽根共同募金活動を行うブースを設ける工夫をしている。</li> <li>・組費の余剰分から出す場合もある。</li> <li>・トライアルでは、買い物客が近隣住民が多く、顔見知りの方や赤い羽根共同募金を経験した方が募金してくれることが多い。また、募金してくれた子ども達には、飴を渡した。</li> <li>・赤い羽根共同募金をこどもまつり、地区のまつり、こどもマルシェで実施している。子ども達は自分のお小遣いでできる範囲で募金を行い、募金した際飴を渡している。</li> <li>・alzoで社協と共同で募金活動を行っている。企業回りをしたり、祭りの際に呼びかけをしたりしている。募金が少ないことだったので、交流センター祭りの際も募った。</li> <li>・毎年、もうう名簿が同じ企業であるが、同じ企業に行つても募金額は減額するだけなので、新しいところを見出して協力企業を増やした。募金してもらえるかは、とにかく声掛けをしないと集まらない。</li> <li>・自治会加入が増えると個別募金が増える。自治会に入していない方も出先で協力してもらっているとは思うが、自治会加入して協力してもらえば増額できると思う。</li> <li>・年度当初に集めた組費から捻出する場合もある。</li> <li>・12月マルシェで街頭募金。11月末法人募金実施。コロナ禍で業績が下がった会社は募金額の減額交渉をする場合が多いが、取り組み事業の報告資料を作成し、活動内容を報告している。マルシェはNPO法人が主催しているが、子どもたちが楽しむイベントを開催すると伝えると、子どもたちのために募金額が増額になった。子どもたちが自転車や徒步で来れるイベントがなくなったため、マルシェを開催してもらい、法人募金でもその活動を伝えている。</li> </ul>

基本目標2	支えあう地域づくり
活動目標(2)	地域ネットワークの拡大
具体的な取組②	地域全体での協力体制の充実

実施した事業など： 自主防災組織の設立・活動

《実施：15地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
・まち協で研修実施、避難所の倉庫点検実施	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など
問題点、困っていることなど	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所に行くまでに道路が浸水するため、早めの避難が必要。避難先でもプライベート空間が保てるようテントが欲しい。</li> <li>・防災組織について、まち協に協力している。防災プロジェクトに参加している。小学校で開催されるが、学校の教職員が地域の活動に参加していない。働き方改革などは分かるが、学校の教職員も地域の活動に参加してほしいと思う。小学生たちは多く参加しているが、教員は1人も参加しない。顔を出すだけでもいいのではないかと思う。</li> </ul>

実施した事業など： 障がい者協議会の開催

《実施：3地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
・障がい者協議会の開催（地区社協・民生委員・まち協・地区内の事業所、相互の情報交換を行う）	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など
問題点、困っていることなど	

基本目標2	支えあう地域づくり
活動目標(3)	地域の困りごとを把握し、支援へつなぐしくみづくり
具体的な取組①	見守り体制の強化

実施した事業など： 長寿弁当

《実施：8地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
・月1回、単身80歳以上を対象に約60食を配付した。 ・高齢者給食サービス（ふれあい弁当）、4～5月・9～3月実施（R7は4月・5月、10月～3月）、約170食を配食) ・毎月1回手作り弁当を作り配付。水曜日午後、木曜日午前中に作り、木曜日の午前中に配布して安否確認をする。 ・給食サービス（長寿弁当：奇数月年5回、19～25名）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長寿弁当（7月8月以外の月1回、単身80歳以上が対象、12月は外注弁当を配食）</li> <li>・福祉弁当（月1回、R5は180食程。R5から単身85歳以上に変更。民生委員・福祉委員の若草会にて作成）</li> <li>・長寿弁当（月1回第3木曜、80歳以上の独居対象）</li> </ul>
問題点、困っていることなど	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など
・月1回、単身80歳以上を対象に約60食を配付した。長寿弁当の配布は、毎月60食を配付しており、7月～9月はパンを配付している。 ・お弁当を作る人も高齢化している。 ・旧交流センターは調理室が広かったため1日で作っていたが、今の交流センターでは2班(2日)に分かれて作る必要がある。 ・物価高騰やお米の高騰を受け、予算の中で実施することに頭を悩ませている。安いお店を探して調達している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月に独居の75歳以上の自治会加入している方にお弁当、お菓子を配付している。弁当業者が各自治会に配り、民生委員・福祉委員が各世帯に配付している。事前にお手紙でお弁当配付について連絡している。毎回270食～280食を配付している。評判がよい。</li> </ul>

実施した事業など： 記念品

《実施：6地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
・慰問品贈呈として、90歳以上に眼鏡ケース、菓子を配布、長寿者慰問費用は地区社協からの助成金。 ・市内施設3ヶ所へ年2回、粗品（記念品）贈呈を行った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敬老会記念品配布（80歳以上の独居160個11月21日）</li> </ul>
問題点、困っていることなど	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度から、社会福祉法人で子どもたちが作る眼鏡ケースを120個(300円/個)発注し、眼鏡ケースとお菓子を配付する取り組みに変えた。</li> <li>・以前は食事会を行っていたが、送迎を民生委員さんに担っていただいたので、民生委員さんの負担が増え、現在は記念品（タオル）を配布している。記念品配付であれば、対象者全世帯に行き渡り、民生委員と顔合わせを行うことができる。</li> </ul>

## 実施した事業など： 電話訪問（声かけ運動等）

《実施：8地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあい電話訪問で第2、第4木曜日に希望者へ連絡している。（対象者29名、ボランティア4名）</li> <li>・ふれあい電話訪問で毎週水曜日（対象：80歳以上の単身者）へ連絡している。（対象者：1名）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあい電話訪問（対象者2名）を実施している。</li> <li>・ふれあい電話訪問（声かけ運動等、毎週水曜日、対象者2名全48回実施）を実施している。</li> </ul>
問題点、困っていることなど	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など
<ul style="list-style-type: none"> <li>・電話訪問は福祉委員が自宅から電話をかけている。</li> <li>・対象者を増やしたいが、難しい。時間が決められているので、その時間に在宅である必要があることや電話による詐欺が多いことから知らない電話番号を取らないといった社会背景も希望者が増えない要因だと考える。</li> <li>・ふれあい電話訪問は、近年廃止している。</li> <li>・最近電話での詐欺等や不審な電話が多いことから、新たに加入する人がいない。</li> <li>・民生委員が中心になって行っている。対象になる方を声掛けしているが、対象者は増えない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあい電話訪問対象者へのクリスマスカードプレゼントは児童クラブで作られたものを渡している。</li> <li>・対象は2件しかなく、利用希望者減っている。しかし、対象者がいる間は続けようと考えている。利用者も電話がかかってくるのを楽しみにしているよう、長時間の電話になることが多い。</li> </ul>

## 実施した事業など： 民生委員による見守り活動

《実施：15地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉委員活動1,520回/年（民生委員、福祉委員、対象者合計1044名/年）の活動を行っている。</li> <li>・お達者でメール（お手紙）を月1回民生委員が訪問時に手渡ししている。</li> <li>・一人暮らしの方を対象に民生委員による見守り活動を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民生委員による見守り活動（民生委員・福祉委員、地区によっては月1回）を行っている。</li> <li>・まち協と連携し、民生委員による見守り活動をしている。</li> <li>・福祉委員と連携し、民生委員による見守り活動を行っている</li> </ul>
問題点、困っていることなど	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など
<ul style="list-style-type: none"> <li>・民生委員の担い手も少なくなっている。自治会が2つまたがると件数が多くなり、なかなか把握できないため、1つの自治会だけで推薦させてもらっている現状がある。民生委員いない地域もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民生委員、福祉委員、老人会で実施している。毎週同じ曜日の同じ時間帯に行っている。訪問対象の高齢者も見守り活動で訪れるのを心待ちにしている様子。男性だけで訪問すると警戒されるため、女性も訪問している。玄関先で話を聞くようにしている。高齢者宅を訪問することもあり、訪問時宅内死亡を発見した場合に備え、3名体制で行っている。</li> <li>・まち協と連携し、民生委員による見守り活動の中で、緊急連絡先、かかりつけ医、服薬等が記載できる緊急時に活用できるものを300枚程度配付している。</li> <li>・6月～9月は日持ちするパン、お菓子、カレー、ご飯、水等を配付している。民生委員会で留守の家への配付に苦慮しているとの声があったため、日持ちできるものを配布するようになった。5月にアンケートを取り、パン等でもよいかの意見を聞いている。留守の場合は、地区社協からお弁当配付のキャンセルの電話をする。</li> <li>・民生委員いない地区は、福祉委員に事情を説明し、お願いして配ったもらう場合もある。</li> <li>・以前はお弁当を手作りしていたが、ボランティアの高齢化のためお弁当を作る場所までの移動手段がない人が出たため、ボランティア活動が破綻している状態と判断し、業者委託に変更した。</li> </ul>

## 実施した事業など： 子どもの通学時の見守り活動

《実施：18地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・春、秋の時期に見守り活動を行い、登下校時に声をかける。</li> <li>・当番ではなく、地域の方が子ども達の帰宅時間にあわせて庭に出て声掛けをしている。</li> <li>・まち協の青バト等夜間巡回をしている。以前は20時頃にしていたが、R6年度は18時くらいに実施</li> <li>・子どもの通学時の見守り活動（月1回）</li> <li>・主任児童委員と小学2年生の顔合わせ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会、まち協、青バトで登下校の見守り活動を行っている。</li> <li>・子どもの通学時の見守り活動（月3回、3か所）を行っている。</li> <li>・子どもの通学時の見守り活動（月3回）を行っている。</li> <li>・わかなっこ見守り隊（青バト4人登録）で登下校の見守りを行っている。</li> <li>・子どもの通学時の見守り活動 民生委員、福祉委員、まち協、自治会 月1回</li> </ul>
問題点、困っていることなど	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの見守り活動は地域の方がボランティアでされている。子どもが少ない地域多いため、団体的なものはなく、有志でしている。組織的にしたほうがよいという思いはある。子ども会の成立がない自治会が多く、25自治会中3つ自治会くらいしかない。</li> <li>・最近は保護者の送迎が多くなっている。保護者の送迎が多いので、保護者の送迎ができない世帯の子どもたちは少人数での登下校となり、集団登下校とまではいかないので余計に危ない。</li> <li>・登校の見守りを学校と相談している。1人での登下校だと事故があった場合に誰も助けられないため、心配している。</li> <li>・子ども会がなくなったので、こども110番のお願いをすることがなくなった。以前はPTAがお願いに回っていたが、今はPTA自体がなくなったり、自主的な活動が難しくなったりしている。子ども会、青少健等が協力体制となることが必要だと思う。</li> <li>・子どもの通学時の見守りはボランティアで行っているが、挨拶をしても挨拶が帰ってこないことがある。名前で声掛けをしたいが、個人情報の観点から名札をしていない。個人情報保護と言われたら何も言えないので、声をかけづらい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの通学見守りは、4月に数日間、地域守り隊、警察の少年補導員が見守りを行っている。</li> <li>・子どもの通学見守りは、4月に数日間、地域守り隊、警察の少年補導員が見守りを行っている。通学路の見守りは多く、自主的に見守りしている方も大勢いる。通学時に挨拶を交わすと顔見知りになる。青バトで回っていると、青バトを見つけた児童が手を振ってくれる。いつも見守り活動されている方が通学路にいない日は、児童が心配してそのことを保護者に伝え、保護者が交流センターへ電話することもあり、児童、高齢者の相互の見守りとなっているのではないか。</li> <li>・小学1年生の通学時の見守りや主任児童委員の顔合わせを行っている。顔合わせ時に交通安全教室を開催。</li> <li>・朝の通学時間に通学路に立ち、見守り活動を行っている。通学路に家がある方がボランティアで見守り活動を行っている。</li> <li>・民生委員と自治会長が、月に3回は歩道に立ち見守り活動を行っている。</li> <li>・小学校の校区では危険な場所もあるため、通学時の見守りは行っている。</li> </ul>

## 実施した事業など： 地域での見守り活動

《実施：7地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院セットを用意</li> <li>・「私のカード」配付</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり協議会への参画・活動</li> </ul>
問題点、困っていることなど	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の困りごとは地域福祉ネットワーク委員会の時に情報共有する。</li> <li>・大勢が問題に関わってもよくないため、包括支援センターや社協へ早めに相談する。</li> <li>・入院セット（バケツ、歯ブラシ、ティッシュ、箸、スプーン、タオル等のセット）を用意し、地域で急遽入院が必要になった方に支援を行っている。</li> <li>・「私のカード」といったその人の氏名、住所、生年月日、血液型、緊急連絡先、かかりつけ医等が記載されているカードの持ち歩きや玄関先に置いてもらうといった活動を行っている。高齢者の緊急搬送が必要な場合等に活用できる。</li> </ul>

実施した事業など： まちづくり協議会への参画・活動

《実施：2地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
・学習支援（まち協、子どもマナビ塾・工作教室）を開催している。 問題点、困っていることなど	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など

基本目標2	支えあう地域づくり
活動目標(3)	地域の困りごとを把握し、支援へつなぐしくみづくり
具体的な取組②	人に寄り添った支援の推進

実施した事業など： 問題を抱えた児童への対応

《実施：1地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
・令和5年度より継続して子育て支援を年7回実施している。 問題点、困っていることなど	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など

基本目標3	つながるしくみづくり
活動目標(1)	情報提供体制の充実
具体的な取組①	福祉に関する情報発信の充実

実施した事業など： 各地区・支所だより発行

《実施：18地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
・各地区・支所だよりを年1回発行 ・各地区・支所だよりを年1回、年度末に発行している。これまで中止していたが。令和6年度に再開した ・社協だより発行（年4回：5月、8月、1月、2月）広報の内容充実 ・各地区・支所だよりを年1回発行 ・回覧板にて地区行事予定を周知している。 ・福祉だより年1回、ネットワークだより年1回を発行している。	・地区社協だよりを発行している。 ・校区社協だより年2回発行している。 ・社協支所だよりを年4回発行している。 ・社協支所だよりを年2回発行している。 ・地区社協だより年2回、まち協だより年4回を発行している。 ・社協支所だよりを年4回発行している。
問題点、困っていることなど	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など

・社協だよりを費用の捻出に苦慮し、年1回に減らした。全戸配布であるため、費用がかかる。赤い羽根共同募金に大口で募金してくれた企業にお礼を兼ねてを掲載し、2月に配布している。  
・回覧板に対応できない高齢者が世帯が多い。隣に持っていくことが困難であるため、回覧板をとばしてほしいとの要望がある。情報に接していないので、民生委員さんに気を付けていただくように依頼している。  
・福祉のつどいの案内を年2回作成している。地域だより自治会で作っている地域もあるが、高齢化のため停止するときもある。

・8月は訪問が少なくなるため、社協だよりを活用し、熱中症対策を呼び掛けている。  
・回覧板は、毎月1日、15日としている。行事予定を入れているが、加入していない方には回覧板が回らず、また加入している方も回覧板を見ているかは不明。絵の方がよいのではいいのではないかと回覧板の作成方法を検討している。市報は未加入者にも回している。  
・市社協支所が発行している。いきいきサロン、福祉のつどいの写真を掲載している。  
・これまで両面だったものを活字を減らし、片面のみにして、端的に分かりやすくし、読んでもらう工夫をしている。

基本目標3	つながるしくみづくり
活動目標(1)	情報提供体制の充実
具体的な取組②	多様な情報提供体制の構築

実施した事業など： 紙媒体以外での新たな広報活動

《実施：0地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
問題点、困っていることなど	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など

・以前はホームページを立ち上げていたが、現在はパソコンを使いこなせる人がいないため、更新ができない。

基本目標3	つながるしくみづくり
活動目標(2)	包括的な支援体制の構築
具体的な取組①	断らない相談支援体制の構築

実施した事業など： 心配ごと相談事業

《実施：15地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
・心配ごと相談事業を随時受付で実施している。 ・心配ごと相談事業、地区社協にて実施している。 ・心配ごと相談事業（社協、月1回）で実施。民生委員の訪問時にも相談されることが多い。 問題点、困っていることなど	・心配ごと相談事業（月1回、市社協）実施している。 ・心配ごと相談事業（支所）を偶数月に実施している。 ・心配ごと相談事業、市社協支所で実施している。 問題点の解決策として考えられること、意見・提案など
・外国人が多い地域があり、なかなか介入しづらい。何かあった際に地域に頼られてくると、コミュニケーションに課題があり、対応が困難な場面が予想される。 ・地区社協の心配ごと相談事業は毎月1回だったが、隔月にした。社会福祉の事業として残す必要があるので、なくすることはできないため、現在は奇数月に行っている。 ・年々相談件数は減っている。随時民生委員さんから、地域に住んでいる人から相談を受け付けている。社協支所等の人の目がある場所での相談に拒否傾向がある様子。	・心配事をいきいきサロンでも聞き取りするが、民生委員が訪問した際に相談されることが多い。社協、包括支援センターと密に連携を行い、対応している。 ・隔月になったものの、電話や窓口で相談があった際はすぐに受け付けている。相談者からしたら、深刻であるため、寄り添い話を聞くと、相談者も安心してもらうことが多い。

実施した事業など： 認知症徘徊対策

《実施：6地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
・認知症に対する啓発 (会議・イベント時に「認知症センター」のオレンジベルトを付けて参加し、認知症センターをPR)	・高齢者認知予防研修会を受講している。 ・徘徊高齢者対策、令和6年度は民生委員と自治会長がユマニチュード研修会を受講した。 問題点、困っていることなど
	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など

基本目標3	つながるしくみづくり
活動目標(2)	包括的な支援体制の構築
具体的な取組②	福祉サービスや支援の一層の充実

実施した事業など： 取り組み事業なし

《実施：0地区》

基本目標3	つながるしくみづくり
活動目標(3)	安全・安心な暮らしを守る活動の推進
具体的な取組①	権利擁護体制の充実

実施した事業など： 権利擁護研修

《実施：0地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
問題点、困っていることなど	問題点の解決策として考えられること、意見・提案など

基本目標3	つながるしくみづくり
活動目標(3)	安全・安心な暮らしを守る活動の推進
具体的な取組②	災害時支援体制の充実

実施した事業など： 災害時支援体制（避難所関係）

《実施：7地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり協議会の研修に合わせて研修に参加している。</li> <li>・自治会で防災組織を設立している。</li> </ul> <p>問題点、困っていることなど</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍ではテントが配付され、避難者のプライベートが守られていたが、近年はテントの配付がない。個人のプライベートを守ることも重要であるため、避難所となった場合は配布してほしい。</li> <li>・各自治会の研修会への参加まではしているが、なかなか進まない。若い人の活動への参加がなく、高齢者しかいないので、進まない。避難としても地区には高台があるわけでもなく、冠水地域が多く、またバイパスも通っているため自動車の多い通りを通り台風の時に避難所にはなかなか行けない。大型商業施設の駐車場を避難場所にさせてもらうよう自治会から直接お願いしている。各自治会に任せせるのではなくて、市でも行ってほしいが民間との交渉はしないと市から回答があった。避難場所として地区にある工場にも自治会で交渉している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時等に活用できる緊急連絡先記入用紙の配付をしている。</li> <li>・緊急連絡先を記載しているその世帯のホットラインを作成（毎年5月～6月に更新）</li> </ul> <p>問題点の解決策として考えられること、意見・提案など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり協議会の交通安全部会避難所運営について協議を行っている。平成30年度、交流センターが避難者であふれることをきっかけに始めた。近年は、市職員、地域、避難者もみんな協力し合い、交流センターの避難所はスムーズに避難運営ができている。</li> <li>・一人暮らしの高齢者へは、早めの避難を呼びかけ、交流センターへの避難を促している。</li> <li>・小学校の避難所の運営会議を毎年行い、鍵の開錠、物資の確認を行う。包括支援センターと連携し、要援護者には民生委員が対応し迎えに行く等の対応をしたり、施設へショートステイしたりしている。</li> <li>・防災組織を自治会で話し合って設立している。各自治会ごとに、状況に合わせた対応をしている。2か所一時避難場所を作っている。バラバラで避難所に行くと、安否が確認できない。各組内によって一時避難場所を設けて安否確認し、避難していない世帯には状況に応じて支援にあたる。集合したのちに指定された避難所へ移る。備蓄品も各自治会で用意するようになっているが、把握はできていない。</li> <li>・大型商業施設の駐車場を避難場所にさせてもらうよう自治会から直接お願いしている。</li> </ul>

基本目標3	つながるしくみづくり
活動目標(3)	安全・安心な暮らしを守る活動の推進
具体的な取組③	防犯体制の充実

実施した事業など： 防犯体制

《実施：11地区》

令和6年度の活動実績・成果等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間巡回として夕方まち協の青パト等や徒步で見回りをしている。</li> <li>・青パトでの見回り</li> <li>・補導員が青パトで地域内を巡回している。</li> </ul> <p>問題点、困っていることなど</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飯塚市内でも高齢者が多い地区であるので救急車が通ることが多い穂波交番連絡協議会で年3回程度情報交換をしているが、地元に反映されていないことが課題。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの見守り活動で青パトで巡回している。</li> <li>・青パトでの見回り</li> <li>・子どもの通学時の見守り活動：防犯青パト</li> </ul> <p>問題点の解決策として考えられること、意見・提案など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の登校見守り際、危険と思われる車の運転や車の往来が多い場所について穂波交番連絡協議会へ進言している。</li> <li>・防犯カメラが必要ではないかと自治会連合会で話がでている。高齢者社会に対する取り組みは防犯も大切だと考えている。全国で高齢者の家に強盗等の事件が起きているため、防犯カメラで抑止力となるのではないか。見守りだけでなく、防犯対策が必要。</li> <li>・特殊詐欺については、人権研修で題材に入っているが、講習会等のソフト面だけでなく、ハード面を検討する必要があるのではないか。過疎債の利活用を進めてほしい。</li> </ul>

基本目標3	つながるしくみづくり
活動目標(3)	安全・安心な暮らしを守る活動の推進
具体的な取組④	再犯防止の推進

実施した事業など： 取り組み事業なし

《実施：0地区》